

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2025-002
2.研究課題名	家族介護者の心理的問題が小児炎症性腸疾患患者の精神的健康に及ぼす影響：患者への関わりに着目して
3.研究期間	令和 7 年 5 月（倫理委員会承認後）～ 令和 9 年 3 月 31 日
4.研究の概要	意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての確に記すこと。） 炎症性腸疾患（inflammatory bowel disease: IBD）は、国の指定難病の中で最も多くの患者数を占める消化器系の慢性疾患である。IBD 患者の精神的健康低下のリスクは高く、特に小児の患者では重症化リスクが高いことや、小児医療から成人医療への移行が必要となりうることから、抑うつなどの心理的問題を抱えやすいことが指摘されている。先行研究では、患児に対するソーシャルサポートが患者の精神的健康と関連しているという知見が存在し、ソーシャルサポートとして、患者の心理的・身体的ケアを主に担う家族について検討することは重要であるといえる。家族介護者がケアを続けるためには介護者自身の精神的健康が高いことが重要であると考えられるが、患者のケアに際して介護負担などの心理的問題を感じている家族は少なくない。また、家族の心理的問題は患者への関わりや患者の精神的健康に悪い影響を及ぼすことが示唆されている。しかし、先行研究では、国外を含め、家族の心理的問題がどのような関わりを介して患児の精神的健康に影響を与えるか、検証されていない点に課題がある。家族の関わりに着目した先行研究では、家族の視点から、過保護の側面を評価するまでにとどまっている。他の側面を含めた関わりが患者の精神的健康に及ぼす影響や、関わりに対する患者側の認識については検討されていない。 本研究では、家族介護者の心理的問題が小児炎症性腸疾患患者への関わりを介して患者の精神的健康に及ぼす影響を、家族と患者両者の視点から明らかにすることを目的とする。 方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと） 小児（調査時点で 11 歳から 17 歳）の IBD 患者と、主に患者のケアに当たっている家族介護者、200 ペアを想定している。 それぞれの適格基準は、 家族介護者：①適格基準を満たす患者の家族、②家族の中で、患者の治療に関するケアや、食事などのサポートに最も関わっている者（患者との続柄は問わない）、③自身の、患者へのケアに関する負担および患者への関わりについて聞く質問が含まれているため、それに答えることが可能であると思われる者 患者：①調査時点で 11 歳～17 歳であり、炎症性腸疾患の診断を受けてから 2 ヶ月以上経過している者、②調査時点で家族と同居している者、③自身の現在の病状や家族の関わりについての質問のほか、過去や現在におけるつらい経験や気持ちについての質問が含まれているため、それらに答えることが可能であると思われる者、④調査に耐えうる精神状態であると主治医が判断した者（ただし、以下のいずれかに該当する場合、主治医の判断により調査依頼書を配布しない：調査項目への回答が精神的負担を著しく増加させると想定される場合、または、過去に自傷歴が

	あり、調査参加による心理的リスクが懸念される場合), ⑤肛門病変に対する手術以外の手術経験がない者とする。 研究参加者の募集について、調査 1 回目, 2 回目ともに小児 IBD 患者の治療を行う病院にて主治医から調査協力依頼書を配布し, Google フォームで回答の回収をおこなう。本研究は群馬大学病院小児科、宮城県立こども病院消化器科、自治医科大学小児科、札幌厚生病院小児科、埼玉県立小児医療センターとの多施設共同研究として実施予定であり、これらの施設において研究参加者を募集する。 問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと） 教育心理学講座 臨床心理学分野 Tel : 022-795-6140
--	---

(紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。)